

かのひ通信

第 2102 号
発行所
三愛学舎
2021 年 12 月 22 日

新校舎 基礎工事完了 建て方工事始まる



本科教室部分の建て方からスタート
(2021 年 12 月 20 日撮影)

約三ヶ月間かけておこなわれていた基礎工事が完了し、12月からいよいよ建て方の工事が始まりました。基礎だけではわからなかった空間が3次元でイメージできるようになりました。新校舎は非常に大きな建物で、三愛ギャラリーと名付けたエントランス部分は5メートルの柱が5本並び、圧巻の大空間となり新校舎の目玉となるはずです。使用する木材は、秋田県大館市の木材集成工場で加工されたものです。雪が降る寒い中で仕事してくれる多くの職人さんにはとても感謝です。



(2021 年 10 月 12 日撮影)

“かのひ”とは? タイトルに込めた想い

不思議なタイトルと感じた方も多いのではないでしょうか？ この通信のタイトル、「かのひ通信」の由来ですが、元奥中山教会牧師三好鐵雄氏が三愛学舎40周年を記念する礼拝の説教で引用された聖句「この日、言葉をかの日々に伝え」から取ったものです。「今いる生徒教職員、多くの関係する方々の想いを、この先何十年とこの地に残る新校舎と共に、次の世代に繋いでいきたい。」そんな願いをこのタイトルに込めました。

写真は基礎工事の様子です。何事も基礎が大事です。しかし、それは地味なもので、人の目からは華やかに映りません。校舎の基礎も建物が建つと二度と見ることができませんが、強固な基礎があつてこそその校舎です。

ます。新校舎建築事業を通して、あらためてそのことを実感しました。

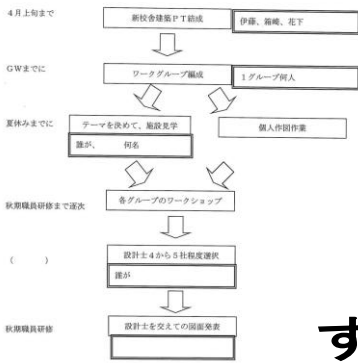
編集後記

新校舎建築の総事業費は6億円。この事業のための寄付金は1千万円を目標としています。これまで約7百万円の寄付を頂戴しました。目標額の達成まであと3百万円です。みなさまのさらなるご芳志をお願いいたします。

(編集者・事務長 箱崎浩二)

すべてはA4一枚から始まった

新校舎建築プロジェクトは2013年度から始まりました。これまでいろいろなことがありながらもようやくここまで



来ることができました。これまで非常に多くの方々のご協力をえながら、こうして工事が行われていますが、この大事業もスタートはたった1枚のコピー用紙に書いたフローチャートか

ら始まりました。今見ても、とても粗末な資料です。「新しい校舎が欲しい。」でも、どうやって実現するのか？ まったくわからないところから、とにかくやることを思いつくかぎり紙に書き出してきました。夢は書いて、誰かに伝えることで実現し、そして多くの人にいい影響を与え